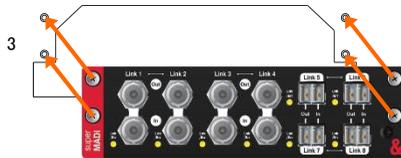


M-DL-SMADI 取付ガイド

M-DL-SMADI(SuperMADI)は、Allen&Heath dLive I/Oポートに接続できる複数のオーディオネットワークングオプションの1つです。同軸BNCおよびオプションの光ファイバーを介して、AES MADI規格(AES10)に128x128ch、48/96kHzのインターフェイスを提供します。

カードの取付

1. システムの電源を切ります。
2. dLive MixRackまたはサーフェイスに固定されたI/Oポートダミーパネルの4本のネジを外します。
3. カードをスロットに差し込み、受け側のコネクタにしっかりと押し込みます。
4. 4つのつまみネジを締めてカードを固定します。



クロック、設定とルーティング

dLiveのI/O画面を使用して、I/Oポート間またはI/Oポート間で信号をパッチします。

MixRack/Audio/Audio Sync画面でクロックソースを選択します。これをマスターシステムのInternal(内部)またはスレーブシステムの関連するI/Oポートに設定します。

必要に応じて、MixRack/Audio/I/OポートまたはSurface/Audio/I/Oポート画面を使用して、SuperMADIカードのルーティング、リダundant、サンプリングレートのオプションにアクセスします。リンクペアごとにリダundantのオン/オフとサンプリングレートを切り替えることができます。2つの96kHzモード(SMuxおよびHiSpeed)を用意し、サードパーティ製MADI機器との互換性を有しています。

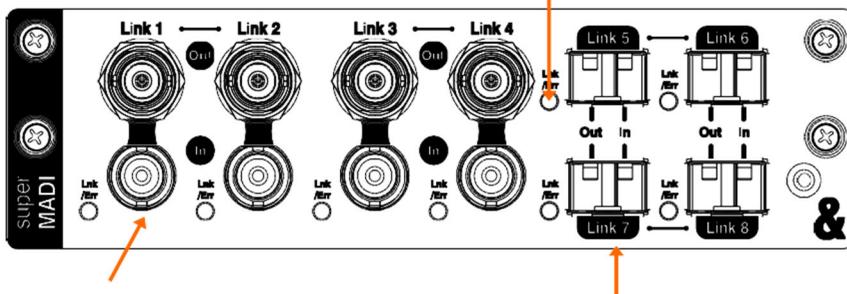
128 I/Oポートの入出力は、32チャンネルのブロックでMADI BNCまたはSFPポートにマッピングできるため、柔軟なルーティングが可能です。たとえば、MADI BNCを使用すると、96kHzで128チャンネル(リダundantなし)、48kHzで128チャンネル(リダundantあり)、96kHzで64チャンネル(リダundantあり)、またはその間の任意の組み合わせを使用できます。

※M-DL-SMADIIIには、dLiveファームウェアV1.5以降が必要です。

フロントパネル

Status LEDs

リンクが確立すると黄色に点滅します。ストリームエラーが発生した場合は赤色に点灯します。



Link 1-4 (BNC)

75Ω 同軸ケーブル用のBNCコネクタです。切り替え可能なリダント機能と各ペアで48/96kHzのサンプリングレートを備えています。Allen&Heath製機器までのケーブル長は最大150mです。

Link 5-8 (SFP)

SFP(Small Form-Factor Pluggable)スロットを、Link5-8用に4つ用意しています。これらは、光ファイバー経由でMADIインターフェイスを提供するために、1つ以上のSFP送信モジュールを装着できます。

SFPモジュール

SFPはIT業界における標準であるため、各国のサプライヤーから、最大2kmのマルチモードファイバーおよび2kmを超えるシングルモードファイバーなどの特定の要件またはアプリケーションに合わせてモジュールを供給できることを意味します。

※SFPモジュールは、125Mbit/sのMADIデータレートをサポートする必要があります。

Allen&Heathは、Broadcom HFBR-57E0PZマルチモードモジュールを推奨します。これらは、M-DL-SMADIとの互換性とパフォーマンスを保証するためにテスト済の製品で、外部ゴムプラグと引き出しレバーを備えた標準LCコネクタを搭載しています。